

|   |   |
|---|---|
| 皮膚粘膜眼症候群、<br>(スティーブンス・ジョンソン症候群)<br>中毒性表皮壊死融解症 | 高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の<br>広範囲の発疹・発赤等が持続したり、急激に悪化する。                  |
| 肝機能障害   | 発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、<br>褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。                     |
| ぜんそく  | 息をするときゼーゼー、ヒューヒューと鳴る、息苦しい等<br>があらわれる。                                     |
| 再生不良性貧血                                       | 青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白く<br>みえる、疲労感、動悸、息切れ、気分が悪くなりくらっと<br>する、血尿等があらわれる。 |

3. 5~6回服用しても症状がよくなる場合は服用を中止し、この文書を持って  
医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

効 能 1. 頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・  
打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛

2. 悪寒、発熱時の解熱

用法・用量 1日3回を限度とし、なるべく空腹時を避けて、服用してください。  
服用間隔は4時間以上おいてください。

|     |       |         |
|-----|-------|---------|
| 年 齢 | 15歳以上 | 15歳未満   |
| 1回量 | 1包    | 服用しないこと |

<用法・用量に関連する注意>  
用法・用量を厳守してください。

成分と作用 1包(0.9g)中に次の成分を含んでいます。

| 成 分     | 分 量   | 作 用   |
|---------|-------|---|
| アスピリン   | 450mg | 熱を下げ、痛みを和らげ、炎症をおさえる作用<br>に優れています。アスピリンは非ピリン系の<br>解熱鎮痛薬です。 |
| 無水カフェイン | 50mg  | 解熱鎮痛の効果を高め、脳の血流を改善<br>して早く頭痛を治します。                        |
| ケイヒ末    | 100mg | 発汗、解熱、鎮痛などの作用があります。                                       |
| カンゾウ末   | 100mg | 抗炎症などの作用があります。  |

後藤散には、上記の有効成分のほかに、散剤の有用性を高める目的で、以下の成分  
が配合されています。

乳糖水和物、タルク

保管及び取扱い上の注意

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管してください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 他の容器に入れ替えないでください(誤用の原因になり品質が変わることがあります)。
- 品質保存のために乾燥剤を封入しています。乾燥剤は無害ですが飲まない  
様にご注意ください。
- 使用期限(外箱に記載)を過ぎた製品は服用しないでください。

 **うすき製薬株式会社** **お客様相談室(月~金 8:00~17:00)**  
大分県臼杵市市浜997-1 **0120-5103-81**(ゴトーサン、ハイ!)  
ホームページ [www.gotosan.co.jp](http://www.gotosan.co.jp)  
副作用被害救済制度の問合せ先(独)医薬品医療機器総合機構 **0120-149-931**

2012年4月改訂(記載要領変更に伴う改訂)

この説明書は、本剤とともに保管し、服用の際には、必ずお読みください。

## 生薬配合 後藤散 第②類医薬品

### 解熱鎮痛薬

後藤散は、きめの細かい微粉末の解熱鎮痛薬です。解熱・鎮痛・消炎に優れた効果をもつアスピリン(アセチルサリチル酸)とカフェインに、独特の芳香をもつ生薬のケイヒ末、カンゾウ末を配合しています。



使用上の注意

 **してはいけないこと** (守らないと現在の症状が悪化したり、  
副作用・事故が起こりやすくなります。)

- 次の人は服用しないでください
  - 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。
  - 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
  - 15歳未満の小児。
  - 出産予定日12週以内の妊婦。
- 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないでください  
他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬
- 服用前後は飲酒しないでください
- 長期連用しないでください

### 相談すること

- 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください
  - 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
  - 妊婦又は妊娠していると思われる人。
  - 授乳中の人。
  - 高齢者。
  - 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。
  - 次の診断を受けた人。(心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍)
- 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を  
中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談してください

| 関係部位  | 症 状   |
|-------|---|
| 皮 膚   | 発疹・発赤、かゆみ、青あざができる                                 |
| 消化器   | 吐き気・嘔吐、食欲不振、胸やけ、胃もたれ、腹痛、下痢、<br>血便、胃腸出血            |
| 精神神経系 | めまい   |
| その他   | 鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、出血、発熱、<br>のどの痛み、背中の痛み、過度の体温低下 |

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の  
診療を受けてください。

| 症状の名称              | 症 状   |
|--------------------|---|
| ショック<br>(アナフィラキシー) | 服用後すぐに、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、<br>くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等<br>があらわれる。 |

(裏面につづく)